

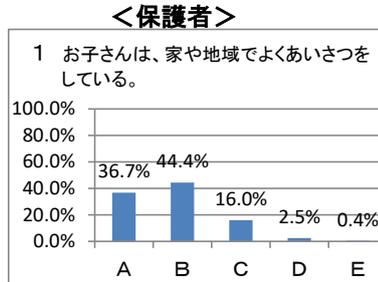
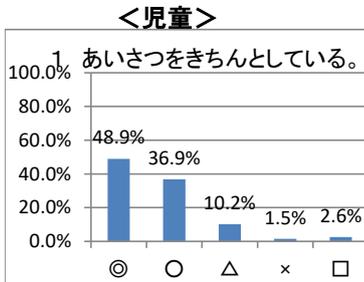
令和2年度教育活動に関する児童・保護者アンケート(A票)集計結果 R2年11月実施

芳賀町立芳賀東小学校

回答数 児童 274名(97.9%) 保護者 275名(98.2%)

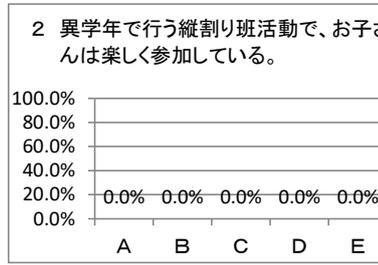
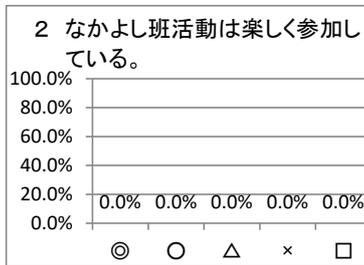
| | あてはまる | ややあてはまる | あまりあてはまらない | あてはまらない | 判断できない |
|-----|-------|---------|------------|---------|--------|
| 児童 | ◎ | ○ | △ | × | □ |
| 保護者 | A | B | C | D | E |

○「やさしい子」の育成について

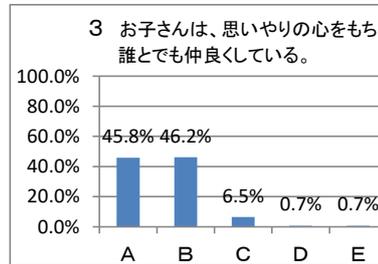
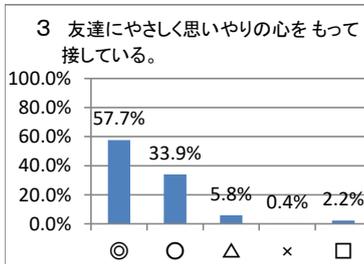


○項目1の「あいさつ」については「あてはまる」「ややあてはまる」の割合の合計が、児童については、85%を超えていることから、あいさつを意識して実践していることが伺える。

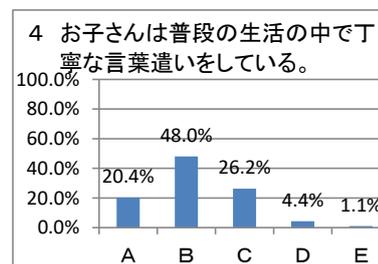
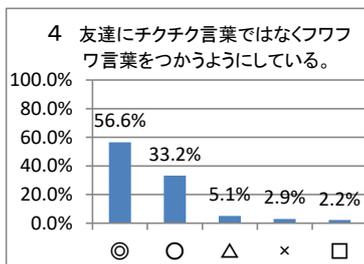
●一方、昨年度同様保護者の割合はやや低く、保護者と児童との意識に差がみられる。B票(記述アンケート)から児童の誰もがどんな場においても(学校以外でも)あいさつできるようになることを願っていることが伺える。



○項目2の「異学年で行う活動」については、今年度は、コロナウイルス感染症対策で活動を極力控えたため、児童・保護者とも回答対象とはしなかった。



○項目3の「思いやりの心」については、児童・保護者とも、「あてはまる」「ややあてはまる」の割合の合計が90%を超えており、友達と仲良く接していると認識していることが分かる。

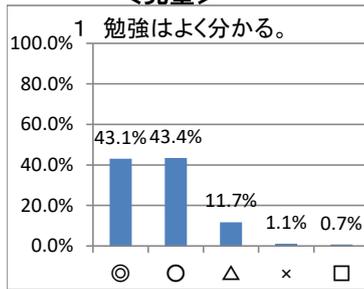


○項目4の「フワフワ言葉・丁寧な言葉遣い」については、肯定的な割合は、90%近くであることから、相手を思いやる言葉遣いを意識していることが伺える。

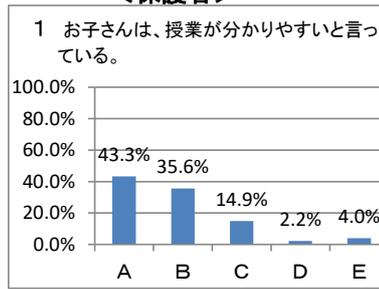
●保護者については、肯定的な回答が昨年度と比較するとやや減少した。まだまだ課題が残る。

○「考える子」の育成について

<児童>

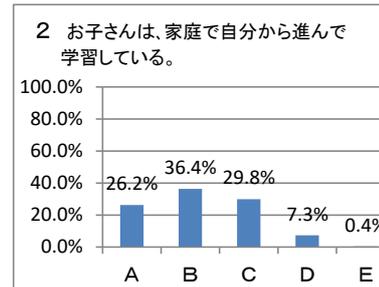
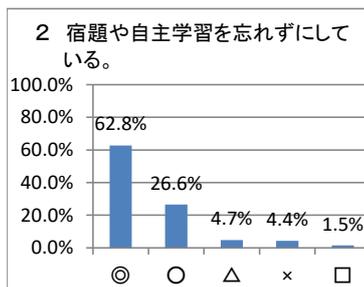


<保護者>



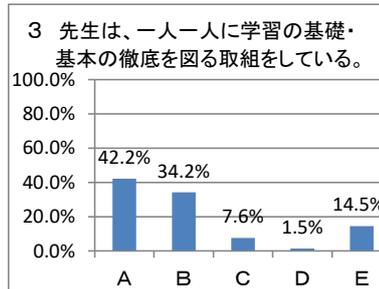
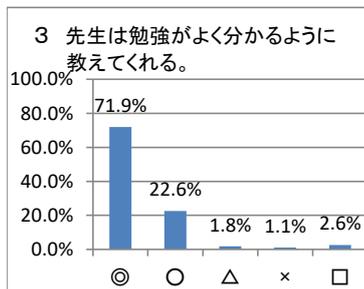
○項目1の「授業の理解」については、児童は約86%が概ね理解していると回答している。

●割合は少ないが、児童、保護者とも「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の回答が見られるのが課題である。(前年度と同じ傾向であるが、臨時休業や分散登校も影響したかもしれない。)



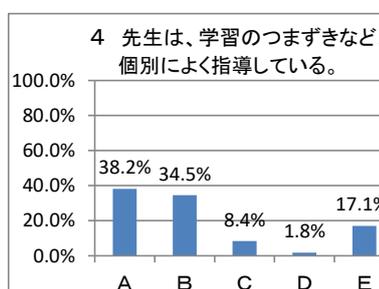
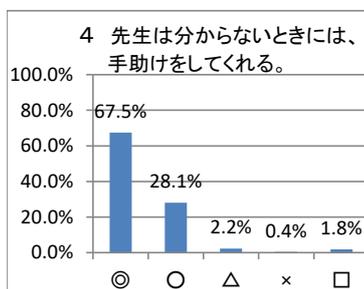
○項目2の「家庭学習」については、児童は前年度同様、90%近くがほぼ家庭学習を行っていると同様、家庭学習の習慣が身に付いてきていることが伺える。

●保護者においては、肯定的な回答の割合は前年度と同程度である。他の項目に比べると肯定的な回答の割合が低いので、家庭との連携を図り定着を図っていく必要がある。



○項目3の「教師の学習指導」については、児童は90%以上が肯定的な回答をしている。

●保護者については、肯定的な回答は前年度と同程度である。一方で、「判断できない」という割合が増加した。取組の発信を通し、さらに学習指導についての理解を図る必要がある。

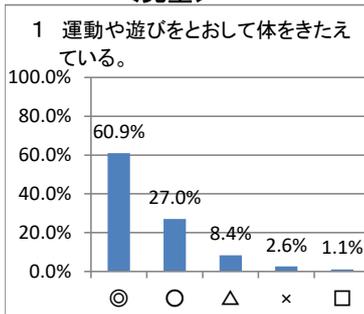


○項目4の「学習のつまずきへの対応」については、児童は90%以上が肯定的な回答をしている。

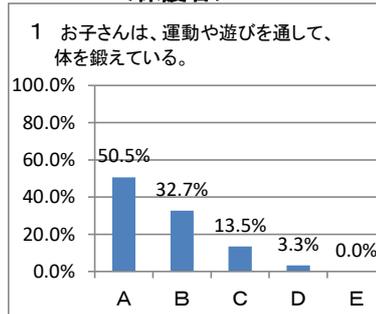
●一方、保護者については、肯定的な回答は約72%と、児童との意識の差が大きく見られる。これは前年度と同じ傾向である。「判断できない」の回答も17%以上見られるので、3の項目と同様、学力向上の取組への理解と協力を図る必要がある。

○「たくましい子」の育成について

<児童>

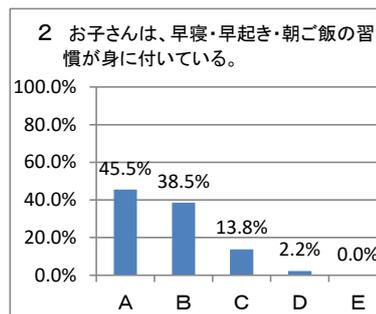
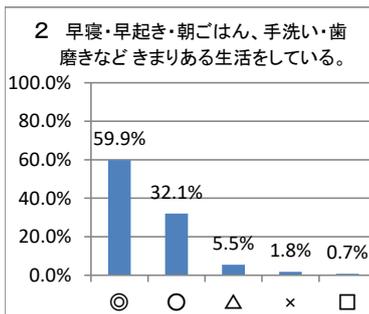


<保護者>



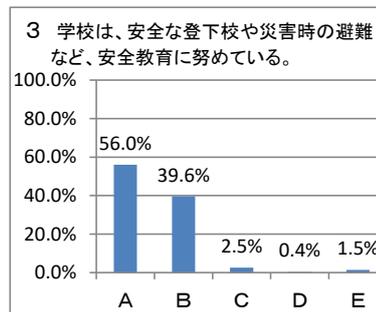
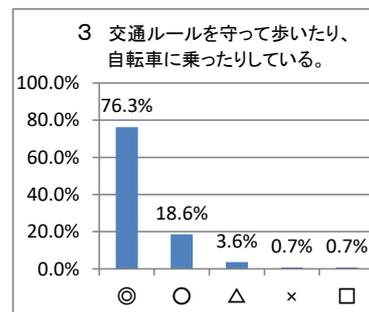
○項目1「運動」については、児童は約87%が概ねあてはまると回答しており、前年度とほぼ同様である。

●保護者については、児童に比べて「あてはまる」の割合がやや低いが、これも前年度と同程度である。コロナウイルス感染症の影響もやや感じているのかもしれない。



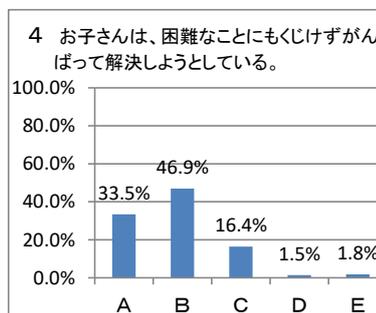
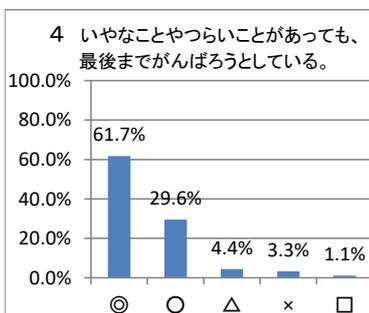
○項目2「生活習慣」については、児童の肯定的な回答の割合が、前年度同様約90%で、きまりある生活をしていると回答している。

○保護者においては、約83%で前年度と同程度である。



○項目3「交通安全」について、児童は約94%と、かなり高い割合で交通安全を意識している結果が出ている。保護者についても、災害時の避難訓練等も含めて、「安全教育」に関して90%以上が肯定的に受け止めている。昨年度と同じ傾向。

●実際には、道路の歩行や自転車の乗り方など個別の指導が必要な面もあるので、継続的に安全教育に努めていくことが重要である。

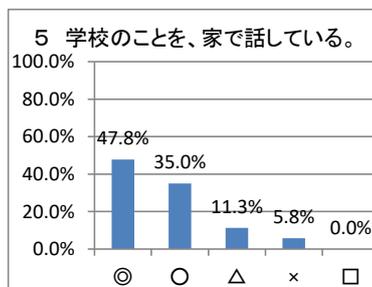
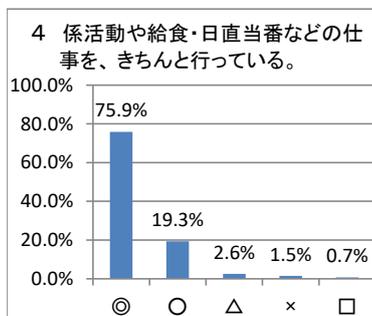
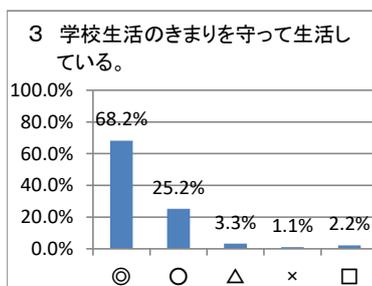
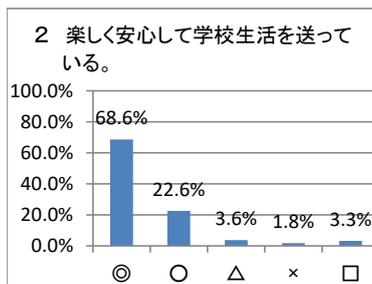
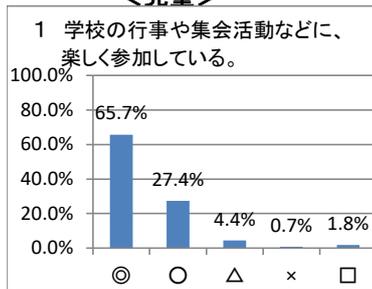


○項目4「がんばる心」については、前年度同様児童の90%が概ねあてはまると答えている。

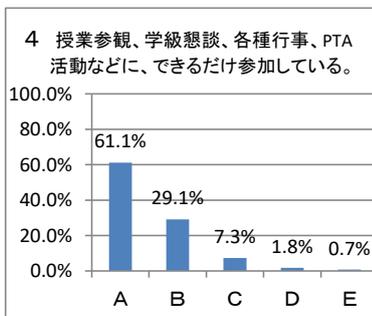
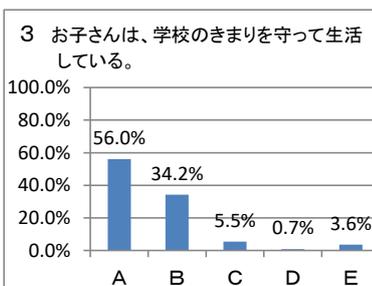
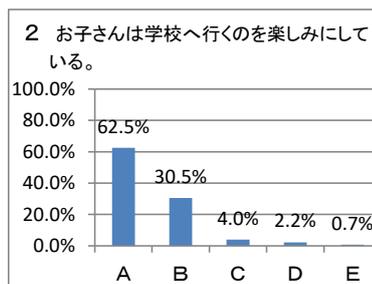
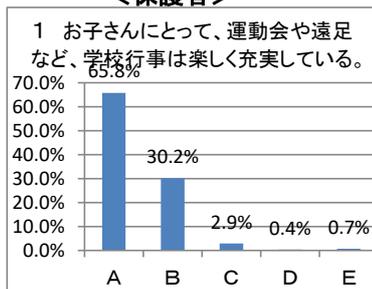
●保護者については約80%と、前年度と同じ割合で、保護者と児童との意識の差が見られるとも、前年度と同様である。

○学校生活全般について

<児童>



<保護者>



○項目1「学校行事、集会活動」について、肯定的な回答をした割合は、児童・保護者ともに、90%を超えている。コロナ禍にあつて、工夫して開催しようとする気持ちが児童・保護者・学校で共有できたと感じる。

○項目2「楽しい学校生活」については、児童、保護者とも肯定的な回答が90%を超えている。
●否定的な回答も見られるので個を大切にされた対応に努める必要がある。

○項目3「きまりを守る」については、児童、保護者とも「あてはまる」「ややあてはまる」の割合の合計が90%以上であり、きまりを守って生活していると認識していることがわかる。
●保護者の否定的な回答の割合が、前年度より上昇している。

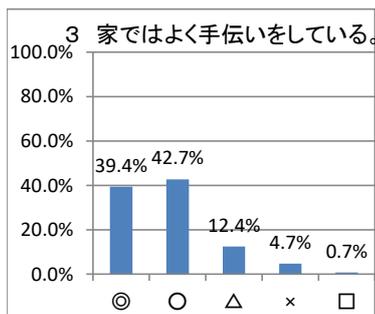
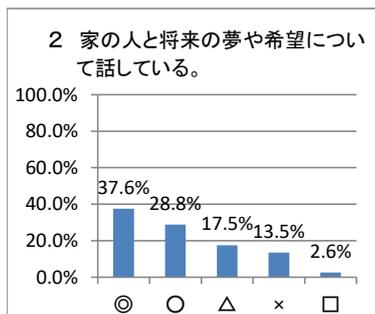
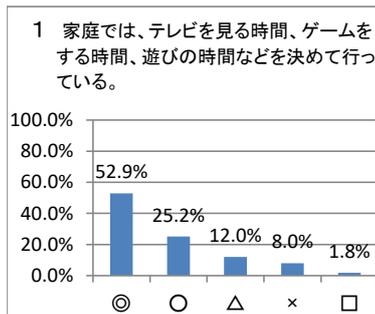
○児童項目4「係・当番活動」については、約95%の児童が行っていると回答している。自分の仕事や役割にきちんと取り組んでいることがわかる。

○保護者項目4「学校行事等への参加」については、90%以上から肯定的な回答が得られた。コロナかにあつても、学校の教育活動への関心の高さが伺える。

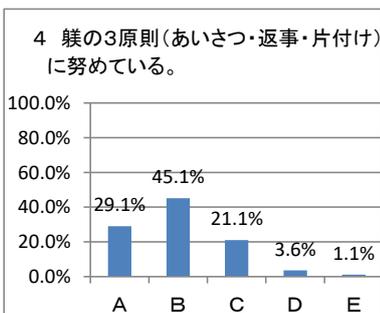
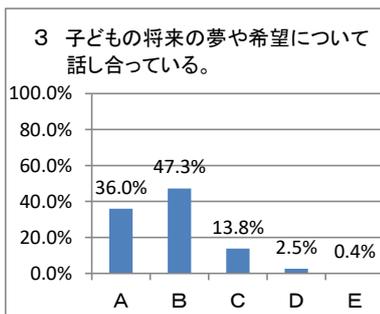
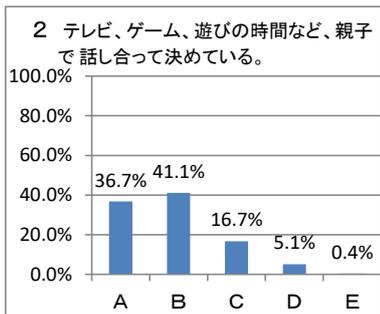
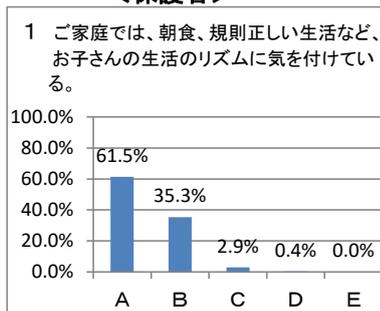
●児童項目5「学校のことを話す」については、前年度と比べ肯定的な回答の割合が増加し、否定的な回答の割合が減少した。

○家庭生活について

<児童>



<保護者>



○保護者項目1「生活のリズム」については、肯定的な回答の割合、否定的な回答の割合は、前年度とほぼ同じである。規則的な生活についての意識の高さが伺える。

○項目1・2「遊びの時間を決めている」については、決めていると回答した割合が、児童・保護者ともに前年度より増加した。「あてはまらない」の割合は、減少した。コロナ対応で、臨時休業や分散登校となったが、生活のリズムの立て直しは、図られたと想像できる。

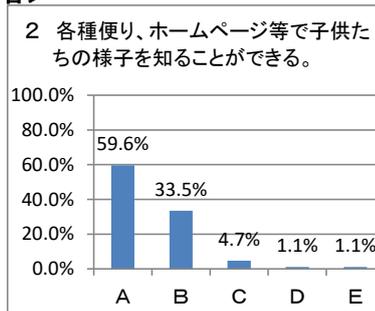
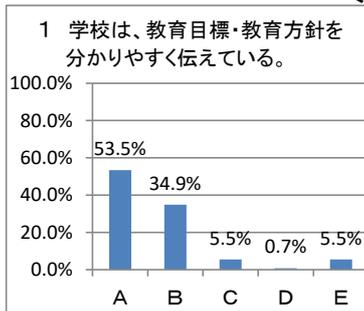
○項目2・3「将来の夢や希望」については、肯定的な回答の割合が、児童が約66%と、前年度に比べかなり上回った。保護者については約76%と、前年度と同程度である。学校生活全般についてのアンケート項目「学校のことを家で話している」の児童の割合も増加している。

●児童項目3「手伝い」については、していると回答した割合が約81%で、前年度と比べ増加した。今後もキャリア教育との関連を図り、家庭と連携し個に応じて意識付けを図っていきたい。

○保護者項目4「躰の3原則」については、していると回答した割合は前年度と同程度である。今後も意識の高揚を望みたい。

○学校教育全体について

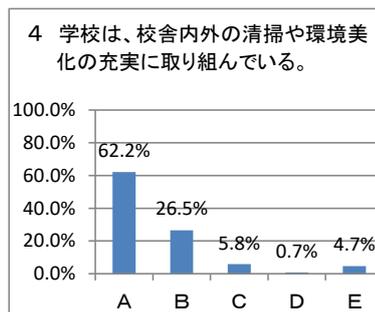
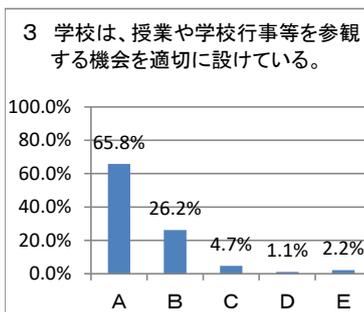
<保護者>



○項目1については、88%以上の保護者が肯定的に受け止めている。

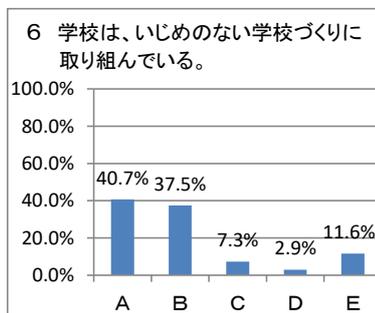
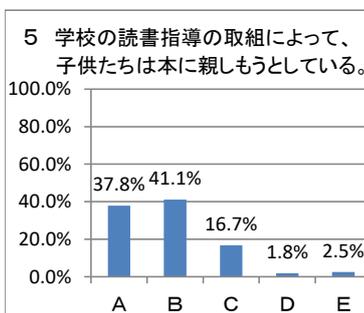
●否定的な回答もあることから、より理解を図っていく必要がある。

○項目2については、肯定的な回答が約93%で、B票(記述アンケート)におけるご意見も参考にしながらさらに、改善を図っていききたい。



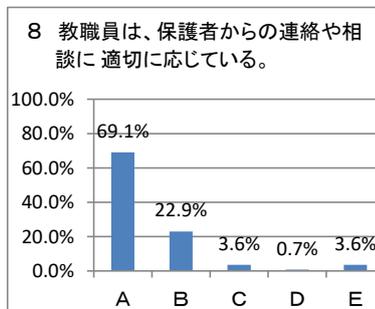
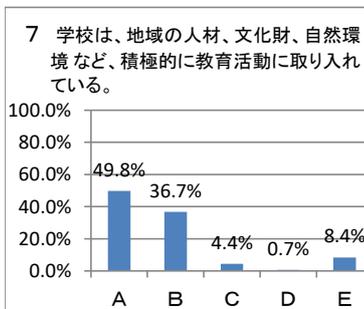
○項目3については、約92%の肯定的な回答が得られた。

○項目4については、88%以上肯定的な回答が得られた。B票(記述アンケート)におけるご意見も参考にしながらさらに、改善を図っていききたい。



○項目5については、前年度からは減少し、約78%の肯定的な回答にとどまった。読み聞かせの自粛も影響していると考えられる。

●項目6については、肯定的な回答が約78%で、前年度と同程度である。さらに児童の様子に細かく目を配り、指導に当たっていく必要性が感じられる。否定的な回答や「判断できない」の回答の割合も見られるので、学校側の取組を発信していききたい。



●項目7については、約86%の肯定的な回答が得られた。前年度からは減少したが、コロナ禍の中にあってはやむを得ないことと考える。今後力を入れていきたい。

○項目8については、前年度同様92%の肯定的な回答が得られた。これからも、誠意ある態度で臨み、児童の教育に邁進したい。